

令和元年白老町議会総務文教常任委員会会議録

令和元年 5月15日（水曜日）

開 会 午前 9時58分

閉 会 午前11時47分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 総合計画の検証とPDCAのしくみについて
 - ①第5次白老町総合計画の概要について
 - ②第6次総合計画の策定方針について
 - ③質疑
 - ④その他
-

○出席委員（6名）

委員長	小西秀延君	副委員長	及川保君
委員	大淵紀夫君	委員	吉田和子君
委員	吉谷一孝君	委員	西田祐子君

○欠席委員（1名）

委員 前田博之君

○説明のため出席した者の職氏名

企画課長	工藤智寿君
企画課主幹	温井雅樹君

○職務のため出席した事務局職員

事務局長	高橋裕明君
主査	小野寺修男君

◎開会の宣告

○委員長（小西秀延君） ただいまより、総務文教常任委員会を開催いたします。

（午前 9時58分）

○委員長（小西秀延君） これより、総合計画の検証とP D C Aのしくみについての所管事務調査を行います。今回の調査は、総合計画等の主要な計画の更新時期であることから、それらの検証方法と実効性の確認としての政策循環のしくみをテーマに調査をいたします。

なお、委員会の意見としては、政策を進める方針となる計画について1年ごとにその進捗状況や成果について公表し、理解を求めるためのサイクルを確立できないかということがありました。そこに向けて調査を進めていきたいと考えております。

今回、担当課から第5次白老町総合計画の概要について確認し、現在策定に取り組まれている第6次総合計画に向けてどのように取り組まれるのか、策定方針について説明をいただきます。質疑を行った後今後の予定について検討を行います。そのようなことで進めたいと思いますがご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） それでは、そのように進めたいと思います。

企画課からの説明をお願いいたします。

工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 本日は、お忙しい中お時間をいただき誠にありがとうございます。

1点目に、現在の第5次白老町総合計画の概要についてのご説明をさせていただきます。なお、この第5次白老町総合計画につきましては、現在評価・検証を行っている最中でありますので、評価内容についても後日ご報告の機会を頂戴できればと考えているところであります。

2点目の第6次総合計画の策定方針については、まち・ひと・しごと創生総合戦略と連携させることや町民参加の機会の増加、また、P D C Aサイクルをよりよくするなどの特徴を持ってございます。詳細につきましては温井主幹から説明させていただきます。本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

○委員長（小西秀延君） 温井企画課主幹。

○企画課主幹（温井雅樹君） 資料1に沿いまして、第5次白老町総合計画の概要についてご説明したいと思います。資料1をごらんください。

第5次白老町総合計画ですが、平成24年度に策定したものでございます。平成31年度を目標年次にしまして各種施策を実施してきております。計画の中間年度である平成27年度に基本計画の一部の見直しを実施しました。このとき、地方創生総合戦略と町長公約との整合性を図ってまいりました。資料1の下のスライドを見ていただければと思います。第5次白老町総合計画の概要になります。本町の総合計画はまちづくりの羅針盤、共働のまちづくりのための活動指針、広域的な行政運営の指針の3つを総合計画の役割としております。第5次白老町総合計画では、みんなで育む、心つながる、笑顔のまちの3つのワードから8年後の町の将来像をみ

んなの心つながる笑顔と安心のまちとしまして各種施策を推進してまいりました。この将来像を実現させるために総花的な5つの基本方針と、その中で特に注力する6つのプロジェクトを定めまして、3つの基本姿勢を意識しながらこれまで計画づくりを行ってまいりました。

続いて2ページ目です。上のスライドになります。こちらは策定体系図でございます。第5次白老町総合計画ですが、白老町自治基本条例に基づきまして、町民・議会・町の三者がそれぞれかかわりを持ちながら計画づくりを進めてまいりました。町民側のかかわりとして、総合計画審議会や町民意識調査、小中学生の標語作品の募集、まちづくりフォーラムや将来像のアンケート等を実施してきました。議会側では、全員協議会や特別委員会での審議をいただきまして、町側では策定委員会、各課プロジェクトチームによる計画案の策定を行い、三者がそれぞれかかわりを持ちながら計画づくりを進めてまいりました。続いて下のスライドになります。策定経過でございます。策定までの期間ですが、平成23(2011)年2月から平成24(2012)年9月までの1年8カ月で前回は策定しております。それまで策定委員会が5回、審議会が12回、各種町民参加プロセス、議会との審議等を実施してまいりました。

続いて3ページ上のスライドでございます。こちらは、趣旨と役割でございます。計画の総論には計画の趣旨と役割、構成と期間、8年後の人口推計値、時代の潮流、まちの現状と姿、これからのまちづくりの主要課題を掲載しております。計画の趣旨でございますが、総合計画とは、白老町の政策執行に関する最高規範であり、まちのビジョンや将来像を示すものとして位置づけております。役割として、まちづくりの羅針盤、協働のまちづくりのための活動指針、広域的な行政運営の指針として位置づけております。続いて3ページ下のスライドになります。計画の構成と期間でございます。計画の構成と期間につきましては、こちらの図のとおりでございます。基本構想、基本計画ともに8年間となっております。基本計画につきましては必要に応じて中間年度で見直しをできるものとしております。実施計画につきましては、3年間で基本期間として毎年度見直しすることとしております。

続いて4ページ上のスライドでございます。こちらは人口想定でございます。平成22年の19,376人から、平成31年の17,100人まで減少すると想定しております。本町の人口は現在16,799人、こちらは4月末現在でございます。すでに推計値を301人ほど下回っている状況でございます。続きまして下のスライド、時代の潮流でございます。こちらは第5次白老町総合計画策定時の時代の潮流を掲載しております。具体的には少子高齢化ですとか、人口減少問題、社会の成熟化、価値観の多様化、地方分権など8つに分類して整理しております。

続きまして5ページ上のスライドでございます。こちらは白老町の姿でございます。第5次白老町総合計画策定時のまちの現状と特性を掲載しております。立地・自然条件、沿革や人口の推移、財政運営など8つに分類して整理しております。

続いて5ページ下のスライド、まちづくりの主要課題でございます。こちらは第5次白老町総合計画策定時の背景を整理しまして、主要課題を洗い出したものでございます。暮らしの安全・安心の確保、まちの活力や魅力の強化など6つの重点プロジェクトに分類して整理しております。

続きまして6ページ上のスライド、白老町の目指す将来像でございます。計画の基本構想に

は、将来像や基本方針、施策の体系、基本姿勢を掲載しております。将来像を導き出すアンケート調査により、重視する3つのワード、みんなで育む 心つながる 笑顔のまちを将来像として導き出してしております。都市の姿におきましては都市計画、マスタープランとの整合性を図り、土地利用の重点項目を設定しております。続いて下のスライド、まちづくりの基本方針と施策の体系でございます。こちらはまちの将来像の実現に向けて取り組むべき基本的な方向性を掲載しております。5つの基本方針に示し、それぞれの分野、生活環境、健康福祉、生涯学習、産業、自治にひもつけて整理をしております。

続きまして7ページ上のスライドでございます。施策の体系です。基本施策の体系を掲載しております。基本方針とそれに基づいてそれにひもつけた分野、その分野の下にある各種施策を体系化して整理しております。7ページ下のスライド、基本方針でございます。こちらは基本構想の推進にあたっての基本姿勢を掲載しております。表中の3つの姿勢により、基本構想を推進することとしております。

続きまして8ページになります。上のスライド、重点プロジェクトです。基本計画は基本構想を推進するための総花的な分野別施策と、その中で特に注力すべき重点プロジェクトで構成されております。重点プロジェクトは表中の1)安全・安心の確保、安全・安心プロジェクトから6)共感・信頼プロジェクトに分けて、その下に14のプランを設定して、重点的・優先的に取り組むものとしております。続きまして、8ページ下のスライドから10ページ下のスライドまででございます。こちらは分野別計画を記載したものでございます。①生活・環境から⑤自治までの分野別計画を掲載しております。こちらには分野別施策の基本施策とそれにひも付く基本事業を各種示したものでございます。

続きまして11ページ上のスライドでございます。こちらは計画推進体制です。基本計画の実現に向けた推進体制について掲載しております。庁内における推進体制と町民・議会・町の三者協力・連携による推進体制を明記しております。続いて下のスライド、こちらは進行管理のしくみでございます。基本計画の進行管理について掲載しております。PDCAサイクルによる評価検証、町民アンケートなど町民目線を取り入れた進行管理を明記しております。

最後のページ、12ページになります。上のスライドは予算・財政計画との連動でございます。予算・財政計画との連動について掲載しております。実施計画を財政計画と連動させて整合性を図るしくみを明記しております。また、予算編成や執行手法の継続的な研究についてもこちらに明記しております。最後に12ページ下の実施計画でございます。こちらは実施計画の構造について掲載しているものです。毎年度ローリング方式の採用や、政策的事務事業の掲載、事務事業コードによる整理などを明記しております、さらに、財政計画や町長公約との整合性を図ることも明記しております。以上が第5次白老町総合計画の総論から基本構想、基本計画、実施計画および計画の進行管理手法等までの説明でございます。概要説明については以上でございます。

○委員長（小西秀延君） 続けて、第6次の策定方針についてもご説明をお願いいたします。

○企画課主幹（温井雅樹君） 続きまして資料2に基づきまして、第6次白老町総合計画策定方針についてご説明していきたいと思っております。

資料2を1枚めくっていただきたいと思います。策定の趣旨でございます。第5次白老町総合計画ですが、先ほどもご説明したとおり、平成24年度に策定しております。平成31年度を目標年次として、「みんなの心つながる 笑顔と安心のまち」を将来像に、各種事業を展開してきております。この間、社会の潮流を見ますと少子高齢化、人口減少社会への危機感、防災・減災意識の高まり、人と人のつながりの希薄化など、社会情勢が大きく変化しております。

また、町民ニーズの多様化・高度化によりこれまでのような画一的な行政運営では対応が困難となってきております。平成30年3月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計では、本町の人口が2025年には12,455人、2045年には7,770人まで減少するものと見込まれております。この減少に伴いまして今後のまちづくりにも大きく影響するものと想定しております。こうした状況を踏まえまして、第6次白老町総合計画は人口減少が今後も続いていくものと受けとめまして、人口減少下においても将来にわたり、町民が心豊かに暮らすことができる持続可能なまちの実現を目指すことを理念に上げまして、計画づくりを行うこととしております。

続いて2番目、策定の根拠でございます。策定の根拠は、第5次白老町総合計画と同様、白老町自治基本条例第26条及び第27条の規定に基づき策定するものでございます。

続きまして3番目の計画策定の基本姿勢でございます。第6次白老町総合計画は5つの基本姿勢に基づき計画づくりを進めます。(1) 実効性の高い計画づくりでございます。計画の成果・効果を客観的に検証でき、策定後の進捗状況を明らかにできる計画づくりを行います。(2) 町民参加による計画づくりでございます。さまざまな町民参加プロセスの機会を設け、広く町民の意見を聴取し、町民参加による計画づくりを推進します。続いて3ページ目、(3) 将来人口を見据えた計画づくりでございます。総合戦略との整合性を図りながら、人口減少対策を進めるとともに将来人口を見据えた計画づくりを行います。(4) 地域内完結型からの脱却を意識した計画づくり、地域内で全てのサービスが受けられるという考えではなく、広域的な視点のもと、お互いに連携・融通し合いながら経済的で効果的なまちづくりを意識し計画づくりを行うものでございます。(5) 次世代への継承を見据えた計画づくりです。過去から継承されてきた地域資源を将来世代へつなげ持続可能なまちづくりを見据えた計画づくりを行うものでございます。

続きまして、4. 計画の構成と期間でございます。計画の構成と期間については、第5次白老町総合計画と同様となっております。(1) 基本構想につきましては8年、(2) 基本計画についても8年、ただし、世界の潮流や町長の任期の整合性を図るため、中間年度2023年で見直しを行うことと想定しております。(3) 実施計画ですが、財政収支と整合性を図りながら3カ年度を計画期間としたローリング方式により策定いたします。

続きまして4ページでございます。5. 総合計画と総合戦略の関係でございます。今回の計画の柱の一つですが、人口減少対策、いわゆる総合戦略との整合性を図っていきたいと考えております。そこで、総合計画の基本計画の重点施策を総合戦略の戦略的施策とリンクをさせまして、双方の計画の整合性を図っていきたいと考えております。基本計画は総花的な分野別施策で構成され、その中から重点的施策を分野横断的に抽出します。抽出した重点的施策を総合

戦略の施策と連動させ人口減少対策を進めていくものと考えております。

続いて5ページになります。6. 計画の策定手法・体制でございます。総合計画の策定にあたり、町民・議会・町の三者がそれぞれかかわりを持ちながら計画づくりを進めます。(1) 策定における町民参加でございます。策定における町民参加の機会としましては、8つのプロセスを考えております。1. 総合計画審議会でございます。民間団体等の代表者のほか一般公募町民も加えた10名により構成されるものでございます。役割としましては、計画の骨子案に肉づけをする役割を果たすものでございます。2. 町民意識調査でございます。こちらは隔年で実施しているもので、今回の調査結果は第5次白老町総合計画の検証作業や顧客満足度調査にも活用する予定でございます。この顧客満足度調査(CS調査)は今回が初めての調査でございます。3. 中学生アンケート調査、こちら今回初めて実施するものでございます。中学3年生の生徒を対象に実施いたします。こちらは将来も白老町に住みたいかなどの意識を調査して、若い世代の意見を反映させるものでございます。4. 小中学生標語作品募集でございます。こちらは小学校5・6年生、中学校全学年を対象として実施いたします。計画の策定過程に参加させ、総合計画に関心を持ってもらうことが目的となっております。5. 町内会及び各種団体への意見聴取でございます。これは今回が初めてでございます。町内会をはじめ各種団体へのヒアリングアンケート調査を実施いたします。6. 未来フォーラムとワークショップでございます。こちらは策定委員である北海学園大学鈴木教授の講演と、その後に参加者によるワークショップの実施を考えております。このワークショップの参加者からまちづくりに対する意見を聴取したいと考えております。7. パブリックコメントの実施。8. 計画策定過程をホームページ等で定期的に発信する。この8つのプロセスで町民参加プロセスのほうを進めていきたいと考えております。

続きまして6ページになります。(2) 町議会との関係でございます。策定過程を随時町議会に報告し情報共有を図りながら進めてまいります。総合計画の基本構想・基本計画は、議会の議決事項のため適切な時期に議会へ提案し、議会の議決を経て策定したいと考えております。(3) 庁内における策定体制でございます。こちらは総合計画策定委員会と各課プロジェクトチーム、策定事務局の三者が連携して総合計画の骨子案をつくっていきます。策定委員会には副町長、教育長、関係課長職及び学識経験者より構成されております。学識経験者は北海学園大学の鈴木教授、室蘭工業大学の有村准教授、商工会理事の谷野さん、お助けネット代表の中谷さんの4人となっております。この策定委員会につきましては4月25日に第1回を実施しております。続きまして計画策定体制図でございます。こちらの図について説明したいと思います。まず、町長から策定委員会に対して骨子案の策定を依頼します。策定委員会は策定方針に基づきまして計画の骨子案をつくります。その際、各課プロジェクトチームや町民参加の意見を策定委員会が取り込み、計画の骨子案をつくっていく流れとなります。策定委員会が策定した計画の骨子案を次に審議会に報告して、審議会でそれに肉づけしていく流れとなります。最終的には審議会で計画が取りまとめられ町長に答申されて、その答申を受けた計画案を町長が議会に提案しまして議決を経る流れとなります。

続きまして7ページ目の策定スケジュール案でございます。策定期間ですが、平成31年4月

から令和2年6月の1年3カ月を予定しております。今年度は審議会からの答申までを目指したいと考えております。議会での審議・可決は令和2年6月を予定しております。それまでに策定委員会ですが、全部で5回、審議会は全部で10回を予定しております。今年度の前半ですが、町民参加プロセスをとおして町民の声を集め分析をしたいと思っております。また、それと並行して各課プロジェクトチームによる第5次白老町総合計画の評価検証及び第6次白老町総合計画の素案作成を実施してまいります。今年度の後半は策定委員会・審議会による計画案の集中審議を行いまして、12月までに最終案を取りまとめて、1月にパブリックコメント、町民説明会を実施して、3月に審議会から答申をいただく流れとなります。以上について、第6次白老町総合計画の策定方針についてのご説明を終わります。

○委員長（小西秀延君） ただ今説明がありましたが、質疑がありましたらお願いしたいと思っておりますが、第5次の白老町総合計画のほうと第6次白老町総合計画のどちらの質問か明確にしてご質問をしていただければと思います。

質疑のございます方はどうぞ。

西田委員。

○委員（西田祐子君） おはようございます。説明していただきまして、第6次白老町総合計画の5ページの策定における町民参加のところ、改めて今回初めてやりますということで、顧客調査満足度（CS調査）、中学生アンケート調査、町内会及び各種団体の意見聴取というのをやられているのですけれども、これに対しては素晴らしい考え方だと思う反面、これだけの方々から調査のものをいただくとそれを整理して分析するというのは非常に大変だと思うのです。それについて自分たちで考えているところの手法というのですか、そういうものを私たち議会に対しても、こう意見がありましたということを出してくれるのか伺いたいと思っております。

それと、未来フォーラムのまちづくりワークショップですが、参加者はどのような方を対象にしている、中学生なども対象になっているのかということ。せっかくアンケート調査しても現実的に自分たちが意見を言って、それをこの計画の中にのせてもらえるかももらえないかということは非常に、中学生くらいになったら興味の大きいことだと思うのです。その辺についての中学生からいただいた意見というアンケートの中から、自分たちで実際にこのまちのために何ができるかというプロセスを見せることも大事だと思うのですがその辺について伺います。

○委員長（小西秀延君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 最初にありました議会の報告なのですが、途中お話も説明の中でさせていただきましたが、途中経過についてもご説明をさせていただく機会をいただければと考えておりますので、策定途中も当然ホームページでもお知らせするとともに議会にもご報告させていただきたいと考えているところでございます。

○委員長（小西秀延君） 温井企画課主幹。

○企画課主幹（温井雅樹君） ワークショップの参加者の対象なのですが、こちらにつきましては広く参加いただきたいと思いますので、前回も一般町民全部ということをやっ

ますので、今回も一般町民全部ということで、さらに中学生に対しては個別に周知するかどうかというのは教育委員会のほうとも相談しなければいけないので、そちらのほうは相談した中で最終的に決めていきたいと思います。事務局側としては、中学生にアンケートを今回初めてやりまして若い世代のほうから意見をいっぱい吸収したいという気持ちもありますので、なるべくそのような場に中学生も来ていただければと思いますので、基本的には広く拒まないで参加者を募りたいと考えております。

○委員長（小西秀延君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） 私は、中学生の参加はすごく大事だと思うのです。ほかの市町村もそうなのですが、子どもたちをいろいろな形で住民投票などをするとき中学生も入れようかという話もあります。また、町内会の活動をするのにあたって中学生や高校生を町内会の役員にして地域活動を進めるといって形になってきています。そういう考え方からいくと白老町も、若い人たちがこのまちを好きになってもらえるための方針をきちんと、企画課がせっかくここまでつくったのなら、きちっとやっていってもらいたいと思うものですからお伺いいたしましたけれどもいかがですか。

○委員長（小西秀延君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 西田委員からお話ありました件は、私どもも当然必要だと考えておりまして、なぜ今回中学生のアンケート調査をやるのかといいますと、先ほどもご説明させていただいたとおり8年間の計画になります。例えば、13、14、15歳ですと、みんな20歳前後になって大人になる歳の大事な時期と捉えてございますので、そういういうことでまちへの愛着ですとか、まちづくりへの関心ですとか、町内会活動も含めていろいろな場面でこれから大人になっていく過程で活躍していただきたいという思いも込めて、少しでも関心を持っていただきたいということで、今回初めて、中学生のアンケート調査ということで、非常に大切なものだと捉えて進めているところです。

○委員長（小西秀延君） ほかに質疑をお持ちの方はどうぞ。

吉谷委員。

○委員（吉谷一孝君） 今回の件に関連して、中学生へのアンケート調査なのですが、なぜ高校生のアンケート調査をしないのかということなのです。もっと言うと、もっと現実的に高校を卒業したら就職する子たちがいて、今の白老の現状はどうかとか、働くところはどうかとかという、もっと真剣に考えている年代だと思うのです。そういう子たちの意見、ましてや高校生になると参政権もあるようになります。そういった意味での広く若い人たちの意見をというのであればそこも重要になるかと考えるのですけれども、その辺についての検討はしていますか。

○委員長（小西秀延君） 温井企画課主幹。

○企画課主幹（温井雅樹君） 今回、高校生のアンケートを除いた理由なのですが、町内会及び各種団体への意見聴取というところがあるかと思えます。この団体というのは、例えば子育てしているお母さん方ですとか、地域おこし協力隊ですとか、高校生のヒアリングもその中で考えておりまして、今回の町民意識調査で対象としている範囲内のところからいろいろ

る意見をいただきたいと考えております。その中に高校生のヒアリングも想定しております、北海道栄高校と白老東高校の2校から、高校生については直接ヒアリングしたほうが生の声が聞けるかと思い、そういった手法で意見を集めたいと思っております。ですので、今回アンケートのほうは高校生を除いております。

○委員長（小西秀延君） 吉谷委員。

○委員（吉谷一孝君） 白老にある高校へのヒアリングということでわかるのですけれども、白老町に住んでいる高校生、白老町出身の高校生にヒアリングを行うべきだと思うのです。白老から苫小牧の高校であったり、そういう子たちが多い中で地元白老の高校へ行っている子たちの割合からすると、ちょっとその辺のチョイスの仕方がどうなのかという部分が私の中ではあります。先ほども言ったように、現実が目の前にきている高校生の意見というのは、子育てしている親の意見を聞けば親としての意見なのです。あくまでも子供たち自身がどう考えて、どう白老町を見ているかの意見ではないのです。そこの部分でいうと私は高校生に対して広く意見を聞く、将来の白老町どうあるべきか、僕たち働くためにはどういうものがあつたらいいかという本当の素直な、純粋な目を見た白老町という意見聞く部分、ここが大事ではないかと思うのでこの辺のところはもう少し精査していただきたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 今、吉谷委員からお話いただいた件については、私どもも必要かと捉えて、中では高校生のアンケートもやろうかという話もさせていただいたところでした。ただ、町外に行っている高校生がどなたが行っているかというのを押さえるというのは難しいという現実的な部分もありまして、これは検討していかなければいけないということで、先ほどの団体・町内会のヒアリングの中で手法も含め十分検討させていただきたいと考えます。

○委員長（小西秀延君） 吉谷委員。

○委員（吉谷一孝君） うちの息子のところにアンケート調査が来ました。就職している息子にいろいろなアンケートが来たのです。だからそういう方法を取りながらでもやる。本当に将来の白老どうあるべきか真剣に考えてくださいというような形の、直接面談して聞く聞き取り方法もあると思うのですけれども、そういう方法でぜひそれに参加してほしい。アンケートに協力してほしいというような中身の手法もあるかと思っておりますので、私はその方法、息子もすごく興味をもって真剣に答えたいという話をしていたのも事実なので、そのように考えてくれる子たちが一人でも多くいけばよりよいものができてくるかと思っておりますので、いろいろなやり方を考えていただいてできれば実施していただきたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 今、お話いただいたのは町民意識アンケートのことなのかと。実際には今言われたとおり私どももやろうとすると、多分これに近いようなかたちで依頼文書なども作成しまして、やるとするとこのような方法しかないだろうと。現実的には町外に行っている高校生を全員ヒアリングするというのは非現実的でありますので、そういうことを含めてきちんと整理させていただきたいと思っております。

○委員長（小西秀延君） ほかに質疑をお持ちの方はどうぞ。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 今、議論していましたが1点だけ伺います。中学・高校生とみたときに、中学生というのはどこに進学しようかと、進学のほうがどちらかというところと趣がある。高校生になると自分の将来、どういう仕事に就くかと考え方の分野が違ってくると思うのです。そうなる自分がどういったところを選んで、それはどこにあるのか。まちのことをよく知っていただく。まちの将来をどのようにつくっていいのかとか、そういったことをここに参加することでわかっていくことが人口減少という一つの大きな問題があるなかで、Uターン・Iターン、もしかしたら地方に行ったけれども、実際このようなことがあるから戻りたいとか、そういったものが成長期の自分たちの人生の選択をするときに触れているということがすごく重要かと思っておりますので、吉谷委員からも質問がありましたけれども、私もそのように考えながら必要だと思って聞いていました。ぜひ工夫して一人でも多くの子供たち、それはまちづくりにかかわると同時に、白老に残ってほしい、白老に戻ってきてほしい。大学、高校へ進学してしまうとそちらに行ってしまうという可能性が大いにあるので、そういう子供たちが戻れる意識を持ってもらうということをやってもらいたいと思います。

質問なのですけれども、第5次白老町総合計画の総論の中で人口の想定があります。ここにも出ていますけれども、平成31年人口が1万6,799人で1万7,100人の想定に比べ301人の減少があったということなのですけれども、この人口減少というのはもちろん第5次白老町総合計画にも人口的なものは書いてあります。先ほど説明あった第6次白老町総合計画の中にも、1つの項目として設けて人口減少をどうしていくかという少子高齢対策というのがあると思うのですけれども、この中で総合計画は最高の規範というもので、それに付随していろいろな計画があるという、総合計画の総合戦略、一つの計画があります。それ自体はなかなか検証ができていないし、なかなか進んでいないという話、前に私も質問しましたがほかの方も質問していると思うのです。

この総合計画を分野別に各主要課題をプロジェクトつくってやっていくというお話がありました。それは、そのプロジェクトをつくった方々が今第6次白老町総合計画に向けて評価検証をしていくのか、そのプロジェクトを担当した部門を検証していくのかどうなのか。そのプロジェクトをつくってやっていくものと総合戦略、人口関係にかかわるこれもプロジェクトをつくってやっていくというのがありました。それは一致しているのかどうなのか。まるきり違う舞台なのかその辺の確認をしたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 温井企画課主幹。

○企画課主幹（温井雅樹君） 総合計画のプロジェクトチームのことなのですが、プロジェクトチームで全部検証する。総体的にはプロジェクトチームで全体的に検証するのですけれども、各課のほうにおろしまして、各課のほうでも検証していただこうと思っています。各課で検証したものを事務局で取りまとめて、それをさらにプロジェクトチームで、各課でいろいろな分野集まりますので、その中で審議いただいてそれを基に審議会、策定委員会にかけていきたいと思っております。そのような流れで進めていきたいと思っております。

人口の関係でございますが、人口のほうは計画ではなく総合戦略のほうで設定していきます

ので、こちらの部分も庁内で策定本部をつくったり、ワーキングチームをつくって全課的に関わります。有識者会議という別な組織ができますのでその中で人口の設定をして、人口を総合計画の審議会ですとか、策定委員会のほうに諮りまして両方連携しながら動かしていきたいと考えております。どちらにしる全庁的に協議しながら進めていきたいと考えております。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 総合戦略は3年ごとに実施計画をやって、実際の実質的な動きを示していくとなっていますけれども、総合戦略というのは国で示した大きな計画としてつくったものです。もちろん総合計画が主なのですが、特に人口減少問題に関しては総合戦略のチームというか、総合計画としっかりと整合性を持ちながら、実際に推進していくのは総合戦略のほうだと思うのですが、総合戦略のほうも検証して総合計画にどのような部分で入れていくのか、きちんとした連携を取らないと、別々の計画ではなくつながりを持った、同時進行で同じ目標に向かっていけるというものにしていかないと、戦略のほうでは出生率が100人とかど書いてあるけれどもとんでもなく全然違う。それに向けてやっているのだけれど検証もなかなかできていないというのが前にありましたけれども、進め方、計画はあるけれども、計画はつくったからいいではなくて、計画があることでこのように進んだというのが検証で出てこないという意味合いがないと。1年以上かけてつくる計画ですからそのことがすごく大事だと思うのですが、その辺の整合性、進め方というのをどこが中心になって、どのような形で連携を取りながらやっていくのかというのはどのようにお考えになっているか伺います。

○委員長（小西秀延君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 総合計画と総合戦略の整合性という部分でございます。第6次白老町総合計画では、先ほども資料の中で説明をさせていただきましたけれども、そちらのほうできちんと整合性を図りながらやっていくということが今回大きな第6次白老町総合計画の流れになるのかと捉えているところでございます。具体的に言いますと、資料2の4ページ5番目、下のほうに図が出ておりますけれども、こちらにおいて総合計画の重点的施策というところと総合戦略の戦略的施策、ここをリンクさせるという考えです。こちらにも書いてあり総合戦略におきましては毎年評価させていただいております。評価はきちんとしていただいているのですが、先ほども出生数を例にお話いただきましたけれども、あくまでも総合戦略は目標的な意味合いもありますので、出生数100人に対してここ数年は50人から60人台ということで、非常に少ないというところでもあります。そこにK P Iという指標を用いて評価させていただいておりますので、ここでの整合性はきちんと図って人口減少対策に対しても、ここで整理をきちんとかけていきたいと考えているところであります。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） これから審議会等をつくっていくということで、審議会のメンバーも鈴木教授と室工大の准教授、町の方をということになっているのですけれども、この方たちは第5次白老町総合計画に関わった方がいらっしゃるのかどうか。または、新たなプロジェクトというか政策、審議会メンバーになっていくのかどうなのかということも1点伺います。

それともう一つ、P D C Aによって実践していくというお話があったのですが、ある教授の

本を読んだのですけれども、P D C Aだけでは不足であるという話が、それはこれから議会でも議論しなければならぬのですけれども、白老町は総合計画は議会条例の中で議会の議決を得るということになったのです。そうすると、全部審議会があり、副町長を中心に政策をつくっていくということをやりますね。全員協議会で議会に報告するというのを、ある程度でき上がったものが議会に報告されるということです。その中でP D C Aではなくて、P D D D C Aが必要だというふうに、6つ必要だということを言っているのです。議会の議決が入るということは、議会はできたものをただチェックすればいいということではなくて、どうそれを討議しながらかわっていくかということが今後重要であるという。計画というのは生かしていかなければならぬし、生きているものであるし、だから見直しをするし、やっていくと思うのですけれども、そういった検討の重要性を言っているのです。その辺のことをお考えになったことがあるか伺います。

○委員長（小西秀延君） 温井企画課主幹。

○企画課主幹（温井雅樹君） 総合計画の策定委員会と審議会のメンバーの関係でご説明したいと思います。策定委員会のほうでは先ほど有識者会議として、北海学園大学の鈴木教授、室蘭工業大学の有村准教授、町内からは商工会理事の谷野さん、中谷さんの4人でございます。審議会につきましては別な組織になっておりまして、こちらにつきましては今のところ委員が、白老町環境町民会議の会長である中野会長、どんぐりの家の施設長である倉地さん、お助けネット理事である北平さん、白老町教育委員の野瀬さん、白老町文化財等運営審議会の運営委員の岡田さん、苫小牧駒澤大学の元教授でございます。白老青年会議所の笠井さん、町内会連合会事務局長の牧野さん、公募で3名上がってきておりまして、虎杖浜に住んでいらっしゃる宇都宮さん、前町内会連合会事務局長である条田さん、元地域おこし協力隊の宇佐見さんの10名で総合計画の審議会のほうを組織することで進めております。

○委員長（小西秀延君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 進行管理、P D C Aの部分について私のほうからお話させていただきます。吉田委員から言われましたP D D D C Aについては、私存じ上げませんでした。勉強させていただきたいと思っております。申し訳ございません。

今回の第6次白老町総合計画におきましては、当然P D C Aサイクル、マネジメントサイクルをよりよくしていきたいという思いで計画策定していきたいと方針でうたっております。大きくは、第5次白老町総合計画と変わらない部分もあるのですが、評価の部分をもう少しきちんとさせていただきたいと考えておりまして、それをより次のアクションのほうにつなげられる取り組みとさせていただきたいと考えてございます。

事業評価といいますか、そこをきちんとさせていただきまして、事業の継続、強化、縮小、廃止、この辺をきちんと整理をすることによって次の年度により生かせるような中身としていきたいと考えておりまして、そこについては当然予算との絡み、ここでもちゃんとそれぞれの毎年度の予算でチェックをいただくというようなことで、これについては財政計画とも当然整合性をとれたような中身で持っていかなければならぬなと強くこのところでは認識しているところです。ただ、先ほどお話いただきましたP D D D C Aは存じ上げておりませんが、

少なからず今回におきましては、第6次白老町総合計画の作成の途中経過につきましても議会に何らかの形でご報告させていただきたいと考えております。常にチェックいただけるような体制は十分意識しながらやっていければと考えているところでございます。

○委員長（小西秀延君） ほかに質疑をお持ちの方はどうぞ。

大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 今回の計画は、私が思うのは今の話を聞いて理解は十分できます。やはり従来の延長線上かなという気が、率直に言って否定するとかというのではなくてするのです。

私は、今の地方自治体の状況、特に白老町の状況というのはかなり危機的な状況にあると。それはやはり人口減と、これは全国どこでも国民が減っているのだからそうなるのだけれど、特に人口減少と財政問題。これが計画の中でどう位置づけられるのかというあたりが、私は深く掘り下げて従来の延長線上のものの考え方でない計画のつくり方をしないと、町民はやはりまた同じような計画が出てきて、同じようなことなのかというふうにはしかならない。職員のみなさんも、安全パイでいえば従来のものを踏襲してやるのが一番楽なのです。前回もそのようにつくったと言えいいのだから。

私はそういうことを打ち破るような計画づくりが必要ではないのかとすごく考えているのです。発想の転換をしないとやはり同じものになるのではないかと。ここが今回の計画づくりの最大の焦点だと私は個人的に見ているのです。例えば、大学教授の皆さん方が入ると、こういうことに対して非常に否定的な意見を持つ方、事業そのもの、財政問題も含めて同時に全然夢みたいな、地域に合致しないような方向、私はこういうことではだめではないかと思うのです。否定的ではなくて具体的な夢が持てるような、そのような計画づくりが、「あなたがつくってみたらいいのではないか。」と言われたら私はとっても困ります。だけど、どこかの隅にそういうものがなくてやると、今企画課長が言われたように評価をきちんとやって、整理をきちんとするという、具体的にすればそういうことなのです。そういうことが人口減少、100人生まれるのが50人しか生まれていない。計画はそうだったけれど結果がこうだったと。それはそうなのです。そうではない計画をつくらなければならないのです。私はそこがより具体的でちゃんと手が打てるもの。

例えば、財政を見ても今のままでいくとは到底思えないのです。人口減少でいえば具体的にはこういうことです。今回だけかもしれないけれど、象徴空間で人が入ってくると、社会減がこれだけだときちんと見えるものにしないと。生まれたのはこれだけ、100人が50何人。人口減少は加速度的に進むと思うのです。それに対してなるほどと思えるような計画と評価、整理が見えるような形にしないと、計画はつくって4年たって、8年たって見てみたらこうだったということにはならないのではないかと気がするのです。そこら辺を変えられる。大学教授もいいことを言うけれど、肯定と否定する部分も、宮脇先生みたいに言われる方、夢みたくないこのようにやったら人口がふえるという言い方。これは違うと私は思うのです。

そういうことが打ち破れるような計画ができないものなのかというのが私の今考えているところなのです。より具体的にするとするのはそういうことであって、それが町民に見えない

限りまちの活性化というのは生まれにくいというふうに思っているのです。非常に抽象的で申し訳ないのですが考え方でいいのでお答えください。

○委員長（小西秀延君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 非常に大きな視点での捉えの話をいただきました。言われていることは十分認識しなければならないと思っておりますし、今回の第6次白老町総合計画のつくり方についてのご意見ということで賜りますけれども、私どもも人口減少問題、特に今回はそこに、そういった中でも正直に言いまして人口減少はとめられないだろうというところで、いかに歯どめをかけていくかということで、これは、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でもそのようなたい方をさせていただいておりますし、よりその速度といいますか歯止めをかけるといいますか、そのようなことをやっていけないだろうかということを計画に盛り込みたいという思いもありまして、実はこの総合戦略を総合計画とリンクさせるというような考え方に至ったというところでございます。ですから、人口減少は今回の象徴空間である程度速度が遅くなったとしても、これは避けられないという捉えの中で、どうやったら持続したまちづくりができるのかということの評価の部分もそうですが、きちんと押さえながら、整理しながら、特に見える化、これも非常に必要だと思います。そういうことをやってまちづくりを進めていきたいという考えでございますし、総合戦略は来月あたりから国から詳しい情報が少しずつ出てくるのかと思いますけれども、これきちんと総合戦略のほうをやっていかない限りは、やっても人口減少は避けられないと思いますけれども、速度を遅くするといえますか、歯どめをかけるようなことを町として施策を打っていかねばならないという捉えはきちんと持っておりますので、その評価も含めてきちんとやらせていただきたいと考えておりますし、総合計画と総合戦略を連携させて、指標も設けながらきちんと点数化といえますか、見える化といえますか、やりながらPDCAサイクルを回しながら、チェックしてアクションを起こすという流れを絶やすことないようやらせていただきたいと考えているところでございます。

今の大淵委員の話を心に留めながら、きちんと計画づくりに邁進していきたいと考えております。

○委員長（小西秀延君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 今の企画課長の答え、よく理解できたのだけれど、もう一つは人口減少と財政だと思うのです。私も一定限度財政的な立ち直りを見せているといえると思うのです。言ってもいいと思います。計画がきちんとできて人口減少が国立社会保障・人口問題研究所より穏やかになって、減る割合が緩やかになって、そういうなかで大切なのは財政をきちんと押さえる。私はこれがなければ自治体は成り立っていかない。国が出すお金というのは部分的には確かに出すのです。計画をつくったら出すとか、新たなものをやったら出す。アイヌ政策などもそうです。北海道で40から50しか出てこないそれが10億円くらいです。そういうものはあるのです。一時的なものなのです。永続的にまちのことを考えたときに、8年とはいえこの計画の中で財政がどのように動いていくか、人口減少によって構成そのものの基礎部分は減るわけだから、今までの計画より財政的にシビアにすべきではないのか。否定的な意味ではなく肯定的になるためにそういうことが必要だろうと。そこを見通せないと事業ができないので

す。今あずっている問題はみんなそこです。病院だってなんだってみんなそこであずっているのです。はっきりしているのです。きょうも北海道新聞に出ていたけれど美唄市の病院がもう一度見直すとなったでしょう。財政をどう計画の中にきちんと組み込むか。それは夢ではない計画をとくということです。そこはより以上にシビアにきちんと財政当局と話をして裏付けをとる。厳しい部分をとるというところが必要ではないかと思うのですが、そこらへんはどのように考えますか。

○委員長（小西秀延君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 財政問題につきましては、今言われたとおりシビアに見ていかなければならないだろうというところがございます。お話のとおり人口減少になると当然のことながら町財政厳しくなってくるというのは、皆さんご承知のとおりだと思いますのでより現実的にとっていかないと、事業一つとっても何でもやりますとはならないだろうと思っておりますので、毎年度の予算もそうですけれども、計画の中でもきちんとそういうことを、財政問題を押さえた中でやらなければならないし、財政当局とも連携してできる、できないも含めてやっていかなければならないと考えているところです。

○委員長（小西秀延君） それでは、暫時休憩といたします。

休憩 午前11時05分

再開 午前11時15分

○委員長（小西秀延君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

引き続き質疑を続行いたします。質疑のあります方はどうぞ。

及川副委員長。

○副委員長（及川 保君） 第5次白老町総合計画の状況と新たに第6次白老町総合計画の説明はわかりました。この総務文教常任委員会の中で総合計画を含めてまちにはさまざまな計画があるわけです。過去もそうなのだけれど、この計画はどうなっているのかという話をすると、何も手がつけられていないとかいろいろあるのです。計画も検証もそうだと思うのです。検証がしっかりされていないと、本当の意味でのまちづくりの効果が出る計画はなかなかつくれないと思うのです。先ほど大淵委員がおっしゃっていましたが、私も全く同感でございます。ようやく総合計画も人口も含めて本当の数字を目指した、水増ししたような計画から脱却してようやくここにきているのだけれど、議会として途中経過も含めてきちんと検証する場が必要ではないのかと。実は前回もその前のときもそうだったのですが、委員会の中でそういう意見が非常に強く出ているわけです。今回、第6次白老町総合計画もどのようにつくっていくというスケジュールが示されているのだけれど、その過程の中でも議会というのは何の役目もないのです。ことし12月に初めて全員協議会の中で説明するとなって、途中なくて4月になって特別委員会をつくってそこで審議をすると。ほぼ固まっているではないですか。こういうやり方をしていると旧来と同じ状況になってしまいかねないと議会としては危惧しているのです。やはりきちんと1年単位でもいいから何か検証していこうというのが、議会として最低限の務めだと私たちは考えて、今回のPDCA方式を何とかうまく機能させられないのかという

状況の中で、きょうの委員会もそうなのですが、これはまちと議会だけが先走ってできることではないから、行政も一体となって計画をつくっていく、そして推進していく状況をつくっていくかなければならないものだから、その辺りの考え方を企画課長はどのように考えているか聞きたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 今お話ございました検証の部分というか議会側への部分でございますけれども、今回の第6次白老町総合計画、先ほど、確かにスケジュールの中には書いてございませんが、作成途中、今これからやっている最中なのですけれども、これもどういう場面がいいのか悪いのかは別としまして、議会側には当然ご報告させていただきたいと考えておりますので、このような形で進めていますというご報告をさせていただきたいということと、先ほどもお話させていただきましたが、作成経過についてもホームページなどでお知らせをさせていただきたいと考えているところでございます。

総合計画ができた後にも、報告をきちんとさせてもらいましてきちんと見えるような形で、見える化ということも含めてやらせていただきたいと考えているところでございます。

○委員長（小西秀延君） 及川副委員長。

○副委員長（及川 保君） 企画課長の今の説明だと、議会に報告すればいいだろうという考え方だと受けとめたのです。それではちょっと違うのです。これから人口減少含めて、財政の今の状況も含めて、まちづくりを進めていくときに、これは8年間の単位でスケジュール、第6次白老町総合計画の計画をしていますね。先ほどの意見の中にもあったけれども、人口減少が加速的に進む可能性が高いのです。先ほど来人口減少は言っているけれども、それほど深刻に捉えていないように私には聞こえるのです。それはちょっと厳しい状況になるということ、8年間のスパンで計画を立てて確かに見直しはするのだけれど、やはり1年ごとの検証が大事になってくるのではないかというものがあるものだから、その辺りもう少し危機的な状況にあるということ、まちのトップの方々は特に管理職の課長の方々はその辺りをしっかりと踏まえて、議会と一体となって計画を進めていくという考え方を持ってほしいのです。ただ、説明すればいいということではなくて。そのあたりの考え方もう1回伺います。

○委員長（小西秀延君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 説明が不足しておりまして申し訳ございませんでした。

あくまでも報告といいますか、当然、報告した際にはご質問ですとか、ご意見賜りまして、次にちゃんと反映させていきたいという思いも含めてお話したところで、言葉が足りなかった部分については大変申し訳なかったと認めてございます。

当然議会の場、こういった委員会も含めてなのですけれども、議員皆様からいただいた意見は非常に重要なものだという捉えをしておりますので、そういうものを含めた中で検証してもらいまして、次の報告にはきちんと生かせるような形で持っていければと考えていますので、私の答弁が拙くて申し訳ないのですが、当然いただいた意見をきちんと吟味しながらどのようにしたら実現できるかも含めて考えた中で、次にお話をさせていただくなり、計画の変更なりということも考えながら計画策定も進めながら進行管理もやっていきたいと思っておりますし、

特に人口問題につきましては、非常に大変なものだという捉えがございますので、従前どおり1年ごとに評価させていただいております。ただ、なかなか厳しい現状がございます。きちんとその中で施策を打って、先ほどの答弁とかぶるところはございますけれども、決して人口増加をさせることはできないまでも、人口減少の速度を遅らせるといいますか、歯どめをかけるようなことができるよう全力で邁進していきたいと考えておりますので、それについては1年ごとの評価をこれからもやらせていただきますし、それを生かした中で次の計画、総合戦略につきましては評価した後のアクションとしまして次の施策を打っていきたいと考えているところであります。

○委員長（小西秀延君） ほかがございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） なければ、私からなのですが、第5次白老町総合計画の中の11ページ下の基本計画の実現に向けてということで、PDCAサイクルに基づく進行管理体制、PDCAサイクルを効率的に、効果的に行政に生かすという形で第5次白老町総合計画も進めてきております。それが現状で徹底されて効率よく遂行されているのかという現状の評価と、資料2の第6次白老町総合計画の7ページの策定スケジュールなのですが、6月の審議会、策定委員会の動きで、第2回の審議会、第5次白老町総合計画の検証、まちの課題出しというのがあります。これで第5次白老町総合計画全体の最終的検証ということにならないでしょうが、ある一定の検証がここできちんと全体のものが出るのか。それが出るのであればきちんとそこでも議会との意見交換をするべきだと思います。

もう1点は、このスケジュール感覚がことしが白老町総合計画の策定年度であって、こういう動きで町民の意見を求めていきますというような流れが、町民にもきちんとわからなければいけないと思うのです。その辺の周知といえますかPRをどのように考えているのかお伺いしたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 第5次白老町総合計画のPDCAの関係でございます。当然こちらについては今までとおりに進めさせていただいております。先ほど策定スケジュール（案）の中にある6月の第2回策定委員会の第5次白老町総合計画の検証と書かれているという部分のお話ございましたけれども、今現在、第5次白老町総合計画の評価検証をやっている最中ですが、その中身について私のほうからお話させていただきますと、役場庁舎内の第5次白老町総合計画の評価検証はちょうど終えたところでございます。端的に言いますと各施策に対して5段階評価で評価をさせていただいて今集計しているところでございます。

第6次白老町総合計画の町民アンケートを2,000人の方を対象にさせていただいておりますけれども、第5次白老町総合計画の中身についても評価いただく内容の質問項目を入れさせていただいております。これを合わせた中で分析して、きちんと評価したものを6月に策定委員会のほうにお示しし検証をさせていただくという考えでございます。それから、今後の周知の部分のお話ございました。先ほどの答弁ともかぶるところがあるかもしれませんが、第6次白老町総合計画の策定において、途中経過をホームページで公表させていただきたいと考

えているところでございますし、議会・町民への周知は非常に大事だとの捉えがございますので、これについてはある程度成案化に向けた動きが出た中では町民の皆様にも周知となると広報になろうかという捉えもありますので、広報などを通してこのような計画をつくっていますというものをお示しさせていただければと今考えているところでございます。

○委員長（小西秀延君） それでは、PDCAはきちんと実行されているという認識でお聞きしましたけれど、当然これ第6次白老町総合計画のほうにもそのような形で継続されていくものだと思いますけれども、そこをわかりやすくするという手法は取り入れていかなければいけないかと。みんなに目に見える形でやっていかなければならないのかと、私は個人的な意見を持っています。

策定スケジュール案も先ほどからホームページで途中経過を報告するという話もありましたが、広報などでもやっていかないと、年配の方々はパソコンなど苦手な方もいらっしゃるし、流れがわからないと思うのです。ここも単発的な議会行政の動きも大きなところだけ載せるのではなく、議会とのコンタクトというところもしていただいて、これだけしか議会はかわらないのかと見られてもちょっと困るところもあると思うので、その辺も煮詰めてお話できればと感じたところでもあります。どうでしょうか。

工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 今お話にありました途中経過も広報で周知してはいかがという部分は、町民の皆様にも逆に関わりづらくならないように、途中経過で決まったことですか、お知らせできる部分がありましたらさせていただきたいと思います。

今このようなことをやっていますということをどのような形で載せるかは中身を検討しなければいけないのかと思いますけれども、お知らせという部分では当然やっていったほうがいいのだと思いますので検討させていただきたいと考えます。

○委員長（小西秀延君） スケジュールのほうはどうでしょうか。

温井企画課主幹。

○企画課主幹（温井雅樹君） 議会とのコンタクトの話だったのですけれども、策定スケジュールの中に、見た目では多く書いていないのですけれども、こちらとしては常に連携を図りながらという思いがありますので、その旨策定スケジュールの下のほうに付記させていただければと考えておりますので、そのような取り扱いにしてこちらのほうホームページ等で公表したいと思います。

○委員長（小西秀延君） ほかに質疑をお持ちの方はいらっしゃいますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） ほかに質疑がなければ、全体をとおして質疑のあります方はどうぞ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） それでは、これで担当課からの説明を終了いたします。企画課のみなさんありがとうございました。

暫時休憩をいたします。

休憩 午前11時32分

休憩 午前11時33分

○委員長（小西秀延君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

次に、今後の予定についてお諮りいたします。

委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。調査の方法や次回の議題などについてご意見があればここで伺っておきたいと思いますがどうでしょうか。

大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 私が思うのは、もちろんこの総合計画は必要なのだけれど、先ほどどなたかおっしゃった白老町全体の計画たくさんあるのです。先ほど聞いたら73だそうです。もちろん国が主導してやるもの、やらなければ補助金がもらえないなどいろいろあると思うのです。73というのは多いです。切れるものは切れないのかと思うのだけれど、それができないのならばしょうがないです。

実際の計画の状況と職員の数、人口が減るから職員の負担がふえるでしょう。そういうことを含めて白老町の計画全体の見直しができないものかどうか、実行があがっているものがどれくらいあるのか。総合計画などは計上がちゃんとされているだろうけれど、多分計上されていない計画がたくさんあるのではないかと思います。そういうことをやってみてはと思うのです。確か、相当前かかもしれないけれど1回総務文教常任委員会でやったことがあるのです。だからこれはもう1回やってもいいのではないかと思います。計画がどれくらいあるかということ、委員がわかっただけでも大分違います。それをやってみようかと思うのです。

○委員長（小西秀延君） ほかにございますか。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 先ほど、私も読んでいて、講演会の中での話だったのですけれども、先ほど言いましたP D C AにDを2つプラスするというやり方というのを行政主導でやっています。町民の声を聞いて、アンケートをして町民中心にして聞いて、ある程度基礎をつくってきたものに議会がものを言うということがどこまでできるのかということなのです。議会は議決権を持っているのです。議決権を持っている以上は議決をしてよしといった政策がきちんと実行されているかどうかということは、サイクルの中で全部というのは議会は無理だと思うのです。人口問題のことも出ましたけれども、こことここの政策サイクルの中で、この点は問題があるのではないかということは委員会とか協議会で、委員同士の討議でも必要だと言っているのです。だから、議会側のこういう計画にこういう方向性、個々の意見だとかは離れて、委員会で今回このようなものを設けたというのは、P D C Aをきちんと評価をしてその評価に基づいた計画づくり、それを実行できるものにしていくということですから、そこに議会が自分たちの委員会の意見として政策サイクルを見ながら、先ほど言った財政といった方向の基本的な部分をきちんと置いたもので必要なサイクルをやっていくということが必要だとこの先生は言われているのです。だから、私は賛成したということはそういう意味があるのかと思ったものですから、委員会としてやるかどうかはみんなで決めることですので、こういう方法をとるべきではないだろうか。それは賛成した議会の立場というものがそうだというふう

に、総合計画はしていない議会もありますから、そういうことを含めると賛成してその計画にどう評価を加えていくのかということが今後の一つの大きな、それで私今回委員会設けたものそういう意味合いもあるのかと思っているのです。

○委員長（小西秀延君） 今、大淵委員、吉田委員からそれぞれ総合計画にかかわるような町の全体の計画が73あって、その他の計画の検証はどうなっているのか。また、議会がきちんとものを言って政策が実行されているのか。そのサイクルのあり方というご意見がありました。まさに、ここをきちんとやらないと、今回の所管事務調査にはならないのかと私も思っていたところでもあります。

結構前になりますが、計画を立てて、立てたときにはきちんと意識はあるのですが、忘れ去られるような計画もあるというような話も前にはかなりみんなでしたこともありました。そういうことに今現状はどうなっているのかということも、総合計画と携わって検証していけるようなしくみを、委員長、副委員長そして事務局交えて進めていきたいと思いますが、そのようなことでよろしいでしょうか。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 今吉田委員がおっしゃったような、議会のほうから提言されたことが実際に具現化されていないという問題があるのではないかとということで、今回このようなものが提案されてきているわけだから、実際に検証をうまくやっているところはどこかあるのでしょうか。先進自治体がもしあるのであれば紹介していただければありがたい。どのようにして検証しているのかと思っているのですが、事務局のほうで探していただけるのかお伺いしてみたいのです。

○委員長（小西秀延君） 高橋事務局長。

○事務局長（高橋裕明君） 多分、今皆さんが言われたことをきちんとやっているところというのはほとんどないと思います。ただ、先進的などいわれている自治体ではお話に出ていましたけれども、議会の意見を取り入れるとか反映させるということをするために、策定段階から特別委員会をつくっているところもあるし、行政の報告をきちんと1年とかのサイクルで報告させているところもあると思います。それが本当に反映して、功を奏してまちが変わるようなところまでいっているかということ、それはほとんどないかもしれないですけども、そういう仕組みは何か所かあると思います。

○委員長（小西秀延君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 今、高橋局長が言われたように一つは例えば栗山町は、議会が総合計画をつくって、町が必要なところを変えて認めているというところは現実的にあります。それは大変なことです。

もう一つ、蛇足の蛇足ですけども、白老町も一番最初はそのようにしてつくっていたのです。見野町長のときは一番最初から全部の議員、白老町に90人くらいの委員をつくって、それは調べてもらったらすぐにわかりますね。全部でやっていたのです。産業だとか項目を10くらいつくって、当時議員は22人いたから3人くらいずつ分かれて町民と一緒につくったのです。

だけど、現実的にはそれは散漫になって全然だめなのです。それで結果として今のような形

に議会改革の中でなっていたものなのです。先ほど及川副委員長が言われたことは確かにあったのです。町民が決めたことを変えていいのかということはあるのです。特別委員会はきちんとつくってその中できちんと議論をして町政に反映させると。それは議決権が議会にあるのだから当たり前のことだというふうにして今の形になった気がしているから、そういうことも調べてもらって、また元に戻すのならそういう方法もあるかもしれないけれど、議会が変えてきたものだから、そこはよく考えて議論していったほうがいいのではないかと私は思います。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 大淵委員が言われたように、先ほど西田委員も言われましたけれど、三重県というところ、進んでいるのが飯田市議会、会津若松市議会は議会からの政策形成サイクルであるということ、先ほど言いましたけれどそういった独自性をもきちんと確立していないと、ただ全体的にかかわっていきこうとしたら町民のつくったものであり、町民もかかわっているものであり、かえって議会が全般にわたってやってしまうと時間がないとかいろいろなことで議会側が息切れしてしまう。かかわり方のあり方をきちんとしていかなければならないとやっているところの反省点を含めて書いてあるのですけれども、そういったところで参考になるところがあれば、多治見市も政策研究会みたいな形で作っているのです。そういうことも考えながらということなのです。

○委員長（小西秀延君） 高橋事務局長。

○事務局長（高橋裕明君） 私もそういう認識で押さえておまして、議会の流れとしては以前は議員が審議員みたいな形に入ってやっていたのですけれど、今の流れはそのときに議員として参加していても議会としてのものと違ってくるので、個人の参加に近い形になってしまうので、議員が審議会か何かで言ったことを議会として認識しているかということと全然ないので、個人としてやっているのがどうなのかとなったのです。今の流れは議会としての合議制機関として、議員としての立場でやりましょうということになったので、行政と議会という関係の中で議会に説明する機会だとか、今回も策定委員会を4月25日にやりました、策定方針決まりましたというけれども、たまたま今所管事務調査だけで、議会としては何も認知されていないのです。策定方針とかこれから作り始めましたということは、全員協議会なら全員協議会を招集してちゃんと説明すべきことをやらない。途中経過をやりますとっているけれど、どの時点の途中経過で議会が聞けるかというのも何も示されていないから、結局そういうことが危惧されるのであって、行政と議会の関係できちんとしたかかわりを持てるように持っていないと、そのかかわり方というのは難しいのかと思うので議員個人としてではなく議会としてやっていきたいと思いますということなのです。

○委員長（小西秀延君） これまでの議会改革のかかわりのお話も出ましたので、踏まえながら調整をさせていただきたいと思います。そのような形で進めてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） それでは、次回開催につきまして、正副委員長に一任していただきたいと思います。追って通知するというところでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） それでは、そのように進めさせていただきます。

◎閉会の宣告

○委員長（小西秀延君） それでは、本日の総務文教常任委員会の所管事務調査を閉会とします。お疲れさまでした。

（午前 11 時 56 分）